

## ヒロイン

君の毎日に 僕は似合わないかな  
白い空から 雪が落ちた  
別にいいさと 吐き出したため息が  
少し残って 寂しそうに消えた  
君の街にも 降っているかな  
ああ今隣で

雪が綺麗と笑うのは君がいい  
でも寒いねって嬉しそうなのも  
転びそうになって掴んだ手の  
その先で  
ありがとうって楽しそうなのも  
それも君がいい

気付けばあたりは  
ほとんどが白く染まって  
散らかった事忘れてしまいそう  
意外と積もったねと  
メールを送ろうとして  
打ちかけのまま ポケットに入れた  
好まれるような 強く優しい僕に  
変われないかな

雪が綺麗と笑うのは君がいい  
出しかけた答え胸が痛くて

渡<sup>わた</sup>し方<sup>かた</sup>もどこに捨<sup>す</sup>てればいいのかも  
分<sup>わ</sup>からずに  
君<sup>きみ</sup>から見<sup>み</sup>えてる景<sup>け</sup>色<sup>しき</sup>に  
ただ怯<sup>おび</sup>えているんだ

思<sup>おも</sup>えばどんな映<sup>えい</sup>画<sup>が</sup>を観<sup>み</sup>たって  
どんな小<sup>しょう</sup>説<sup>せつ</sup>や音<sup>おん</sup>楽<sup>がく</sup>だって  
そのヒロインに重<sup>かさ</sup>ねてしまうのは  
君<sup>きみ</sup>だよ  
行<sup>い</sup>ってみたい遠<sup>とお</sup>い場<sup>ば</sup>所<sup>しょ</sup>で見<sup>み</sup>たい  
夜<sup>よ</sup>空<sup>ぞら</sup>も  
隣<sup>となり</sup>に描<sup>か</sup>くのはいつでも  
見<sup>み</sup>慣<sup>な</sup>れたはずの街<sup>まち</sup>がこんなにも  
馬<sup>ば</sup>鹿<sup>か</sup>だなあ僕<sup>ぼく</sup>は

君<sup>きみ</sup>の街<sup>まち</sup>に白<sup>しろ</sup>い雪<sup>ゆき</sup>が降<sup>ふ</sup>った時<sup>とき</sup>  
君<sup>きみ</sup>は誰<sup>だれ</sup>に会<sup>あ</sup>いたくなるんだろう  
雪<sup>ゆき</sup>が綺<sup>きれい</sup>麗<sup>い</sup>だねって  
誰<sup>だれ</sup>に言<sup>い</sup>いたくなるんだろう  
僕<sup>ぼく</sup>はやっぱ僕<sup>ぼく</sup>は

雪<sup>ゆき</sup>が綺<sup>きれい</sup>麗<sup>い</sup>と笑<sup>わら</sup>うのは君<sup>きみ</sup>がいい  
でも寒<sup>さむ</sup>いねって嬉<sup>うれ</sup>しそうなのも  
転<sup>ころ</sup>びそうになって掴<sup>つか</sup>んだ手の  
その先<sup>さき</sup>で  
ありがとうって楽<sup>たの</sup>しそうなのも  
全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>君<sup>きみ</sup>がいい